



第8戦 スポーツランドSUGO

Human & Technological Gallery



難しい天候でのレース、石浦5位、国本8位でポイント獲得。

スポーツランドSUGO(宮城県)にて最終戦を迎えた2009年度フォーミュラ・ニッポン。タイトル争いは既に決着が付いているが、チャンピオン以外のシリーズ順位はもちろんこのレースの結果にかかっており、最終戦にして導入されたソフトスベックのドライタイヤを駆使して、より一層白熱したレース展開が期待される。今回は給油ならびにタイヤ交換の義務付けはなく、ピットインの有無を含めた作戦も大きな見所となる。

9月26日(土)、一日を通して快晴。この日の最高気温は25℃を越え、9月の東北にして夏を思わせるような天候の下で予選が行われた。Q1は14:30~14:50の20分間。全ドライバー中最も早くコースインした石浦は、いち早くマシンの状態を確認。10分程度の走行で石浦、国本ともにマシンの状態を確認すると、ピットに戻りマシンをアジャスト。最後の5分はニュータイヤでタイムアタックを行い、石浦3番手、国本8番手でともにQ2へ進出。Q2は15:00~15:10。ここでも開始と同時に2台ともコースイン。状態を確認してすぐに戻ると、ニュータイヤに交換し最後の5分でアタックへ。国本は1'08.123で10番手、Q3進出の8台にあと一歩及ばず、ここで予選を終了。石浦は1'07.138で4番手、Q3へと進んだ。最終ステージのQ3は15:20~15:30。石浦はフロントのみニュータイヤを装着し、開始と同時にコースイン。すぐにピットへ戻り、リヤにもニュータイヤを装着。他車とのタイミングを計って、いよいよ最後のタイムアタックへ。1'07.074で、決勝グリッドは4番手に決まった。

9月27日(日)、前日から一転、涼しい一日となった。東北唯一の開催となる今戦の観客数は15,500人。曇りのまま天候の崩れはないと予想されていたものの、決勝スタートを迎える頃になると、空にはより厚い雲が広がり、霧のような細かい雨が時折パラつき始める。予定通り14:30にフォーメーションラップが開始、1周の隊列走行を終えて、いよいよ最終決勝の火蓋が切られた。Team Le Mansの2台はともにノンストップ作戦で、ドライタイヤでスタートした。1コーナーで多少の混乱があったものの、石浦はポジションキープの4番手、国本はスタートで少し順位を落として12番手。8周目あたりでまた小雨が降り始めたが、この時点ではまだドライが有利だったため、各車ラップタイムを1分20秒前後まで落とすものの、慎重に周回を重ねる。10周終了時点で、石浦は4番手を守りつつ前を追い、国本は他車のピットインで9番手。粒の細かい雨が徐々にその量を増し、12周あたりからウェットに交換する車が現れ始め、15周を終えて石浦は3番手、国本は6番手。20周を迎える頃、石浦は徐々に前車との差を縮め、3台が絡むトップ争いを繰り広げ、雨の増えた路面で懸命に先行するチャンスを狙っていた。国本も順調にラップタイムを刻み、6番手をキープ。しかし雨量の増えた路面で21周、石浦は痛恨のスピン。22周を終えて石浦はピットに入りウェットタイヤに交換。次の23周で国本も同じくタイヤを交換。コースに戻って、25周で国本5番手、石浦6番手。

小雨の状況はその後も続き、徐々にドライタイヤのマシンには厳しいコンディションに変化した。ドライとウェットのタイム差は3秒近くあったが、抜き所の少ない菅生では抜くタイミングが難しく、結果ドライタイヤのマシンがブロックする格好となり、その後ろに数珠つなぎでマシンの列が出来る状態に。そのマシンを先に上手くかわしたのは石浦だった。45周でやっと前に出ると、その後は1分25秒台のペースで5番手を走行。49周で前車のスピンにより4番手、しかし57周でそのマシンに再び先行され5番手に。そのままチェッカーを受けた。国本はウェットタイヤを駆使しすぎたために終盤ラップタイムが落ち、一時順位を落としてしまうものの、58周とうとうドライタイヤの前車をかわし8位でレースを終え、今季初のポイントを獲得した。

土沼広芳 監督のコメント

「最終戦をここ菅生で無事終えることができました。今回の予選は、石浦4番手、国本10番手で、そこから決勝で順位を上げられるよう望みをかけて、細かなセッティングをして決勝に臨みました。レースは両ドライバーともに頑張ってくれて、国本は8位で1ポイント、石浦は5位で4ポイントを獲得しました。もちろん欲を言えばもっと上の順位で最後を締め括りたかった気持ちはありますが、よく頑張ってくれたと思います。一年間のご声援に感謝いたします。ありがとうございました。」

#7 国本京佑のコメント

「(土曜の)フリー走行でマシンの調子が良かったので、予選はQ3に行けると思って臨みましたが、他のクルマに引っ掛かって上手くアタックが出来ず、満足いくタイムの出せないままQ2で予選を終えることになり、残念でした。決勝は天候がコロコロ変わって難しいレースになりました。序盤はけっこうペースが良かったので、今回は良いところまで行けるんじゃないかと思っていたところ、レインタイヤに交換して4~5周で懸命にプッシュしたため、リアタイヤを使いすぎてしまって、タイヤがブローしてしまいました。その結果、たくさんのドライバーに抜かれて順位を落とすことになりましたが、最後まで走り切ることができて良かったかなと思います。今年一年間は厳しいシーズンになりましたが、1戦1戦自分なりに成長できたと思いますし、自分にとってプラスになったシーズンだったと思っています。一年間応援ありがとうございました。」

#8 石浦宏明のコメント

「予選は3番手を狙えるくらいのスピードだったんですけど、セクター2でどうしてもあと一歩タイムが上がらなくて、決勝グリッドは4番手になりました。決勝に向けてはノンストップの作戦を取っていましたが、天候の変化によりタイヤ交換でのピットインを余儀なくされました。ドライタイヤで雨が降ってきてからのペースは良く、トップグループを走ってたんですけど、ウェットタイヤに換えてからのペースが今ひとつ上がらなかったのと、自分でスピンしてタイムロスしたので、そこは反省しています。表彰台の可能性が十分にあったレースだったので悔しい気持ちはありますが、一年間を振り返ってみると、シーズンを通して去年より良いレースができたと思っていますし、今回のように表彰台に乗れそうで乗れないレースというのを、乗れそうな時はきっちり表彰台に乗る!!という風にしていけば、シリーズ争いに絡む自信はあるので、今後も頑張っていきたいと思っています。応援いただいた皆様、本当にありがとうございました。」